

お知らせ

本年度、当研究所の事業運営にご助言をいただき、多くのおおひ幹事を次の方々に委嘱いたしました（敬称略・五十音順）。

参 与

岩船 修	（株）協同組合通信社 取締役社長
太田原 高昭	北海道大学農学部農業経済学科 教授
小川 美延	JARAんこし 代表理事組合長
笠島 紀久雄	北海道農政部農業企画室 室長
枳穀 勝久	JA根室 代表理事組合長
黒柳 俊雄	札幌大学経済学部 教授
駒場 剛太郎	共和町 町長
佐久間 衛	専修大学北海道短期大学 教授
佐々木 市夫	帯広畜産大学畜産学部畜産管理学科 教授
高島 勝利	北海道町村会 事務局長
寺西 敏男	JA北海道中央会 常務理事
中川 正男	北海道文化放送 代表取締役会長
中村 文士郎	北海道立中央農業試験場 副場長
西村 博司	ホクレン農業協同組合連合会 代表理事常務
林 芳男	滝川市 市長
古川 嗣彦	北海道農業試験場農村計画部 部長
堀内 一男	酪農学園大学酪農学部酪農学科 教授
山田 定一	北海道大学高等教育機能開発総合センター 教授
幹事	
岩崎 徹	札幌大学経済学部 教授
市川 治	酪農学園大学酪農学部農業経済学科 教授

奥田 仁	北海道大学経済学部 教授
小田 幸人	北海道信用農業協同組合連合会融資部 審査役
金谷 明	ホクレン農業協同組合連合会営農対策課 課長
黒河 功	北海道大学農学部農業経済学科 教授
倉知 拓野	岩見沢市 農業者
坂下 明彦	北海道大学農学部農業経済学科 助教授
柴田 憲	JA訓子府 参事
鈴木 隆志	市民生協コープさっぽろ生活文化本部 本部長
嵯峨井 喬	JA北海道中央会営農生活部 部長
長尾 正克	北海道立中央農業試験場経営部 部長
野田 哲治	JA浜中町生産部 部長
日村 勉	北海道農政部農業企画室 主幹
村瀬 慎治	JAひがしかわ営農課 課長
矢代 和則	JA厚沢部町管理部 部長
オブザーバー	北海道開発局局長官房開発調査課 農林水産班

第二回 『ホクレン夢大賞』 募集

ホクレンでは、北海道農業の担い手に夢と希望を与え、地域農業に活性化をもたらす人材育成を目的に、『夢大賞』を昨年にひきつづいて次の要領で広く公募しています。

〔部門と応募対象〕

- 1 農業者部門
 - 一般農業者またはそれらが組織するグループ
 - 2 研究普及部門
 - 大学・研究機関等の研究者および個人。
- 3 農業応援部門
 - 新聞・雑誌社等のマスコミ、消費者団体、その他農業外の団体及び個人。

び、地域で実践的な研究・普及に取り組む農業者とそのグループ等。

新聞・雑誌社等のマスコミ、消

費者団体、その他農業外の団体及



DATA FILE

関連事項 / DATA

立正大学 経済学部
〒141 東京都品川区大崎 4-2-16
☎03-5487-3243
FAX・03-5487-3350

財団法人 富民協会
〒530-51 大阪市北区梅田3-4-5
毎日新聞社内
☎06-345-6567
FAX・06-345-6586

公立菊池養生園
〒861-12 熊本県泗水町大字吉富2177-1

北海道大学 農学部
〒060 札幌市北区北9条西9丁目
☎011-716-2111

グローバル地域研究所
〒283 千葉県東金市油井257-13
携帯☎03-6899-960
FAX・03-3714-4004

JAひがしかわ
〒071-14 上川郡東川町西町1丁目5-1
☎0166-82-2121
FAX・0166-82-2557

北海道立中央農業試験場
〒069-13 夕張郡長沼町東6線北15号
☎01238-9-2001

か。あの時から中国大陸や朝鮮半島そして太平洋の各地への侵略軍の進取が始まり、緒戦の驕りがそのまま一五年という長く凄惨な歲月へ国の内外の人々を道連れしたのだから。

◆その一五年戦争の犠牲となられた多くの人のために敬虔な祈りを捧げることに躊躇は微塵もないが、節目の時のだけの関心事で喉元過ぎれば、とらないよう緊張感を維持すべきだろう。

◆確かに、あの八月一日を境に日本国民は、戦争と軍国主義の桎梏から解放されたのだが、それ以上の筆舌できぬ複雑な感情で日本による侵略戦争の呪縛から解放された多くの国の人々がいるのだから。

◆さらには、あの八月一日以降の、敗戦国・被占領国としての惨めでひもじかった日々があったことも忘れてはなるまい。今日の、金さえ出せば何でも思いのまま手に入れられるが如き錯覚が罷り通っている日本国に、再び鉄槌が打ち据えられないうちに。

◆今年、中国大陸では気象災害が頻発し、国民の食糧問題はいよいよ緊迫化している。また不幸な戦争のあと国交断絶がつついている北朝鮮は、食糧不足が益々深刻化し、面子を捨てて日本からのコメ援助を求めており、第二次決定の三〇万七に加えて第二次の二〇万七について交渉が持たれている。

◆これらが、対岸の火災でないことは「平成コメ騒動」で経験済みである。今後の気象が穏やかに豊稔の秋を迎えられることを心から祈る。

(K・T)

〔応募方法〕

所定の応募用紙に必要事項を記入して、左記まで持参または郵送。

〔応募用紙の請求・問い合わせ〕

〒060-0911

札幌市中央区北四条西一丁目

ホクレン役員室「夢大賞」事務局

TEL 011(232)61008

FAX 011(242)50047

〔締切り〕

平成7年10月31日 当日消印有効。

〔賞〕

各部門とも大賞(副賞100万円)各一点。優秀賞(副賞30万円)各数点。

〔審査・表彰〕

平成8年3月。

編集 後記

◆一九九五年八月一日正午、札幌の気温は二六・六℃と八月初の夏目になったが、相変わらずとんとんとした曇り空で時折小雨もばらついた。

◆三三℃を超える炎天下の甲子園球場では、旭川実業高校が15対13の大激戦で鹿児島商業高校に競り勝った。

◆今年は、終戦五〇年の節目にあたるということから、報道機関も連日キャンペーンを叩きつけてきたし、市内の書店でも「終戦五〇年特別コーナー」がお目見えして関連書籍が数多く陳列された。

◆それまでの数カ月の長い期間を、あ

のオウムとサリンに明け暮れていたことの虚しさと比較すれば、戦争というおそろしい歴史の事実を風化させることなく、謙虚に噛み締めてみることは大切なことだと思ふ。

◆野球とは違って、戦争というものが単純に優勝劣敗を競うものでなければ、疾くには大敗は歴然としていたものを時の為政者の面子や瘦せ我慢にひきずられて辿り着いたのが、一九四五年八月一日だったのではなからうか。

◆面子と瘦せ我慢は、玉音放送という曖昧な形式でも終戦と言いつつ、今日もそのように言うが、実は、完膚なきまでの無条件降伏だったのだ。

◆歴史の事実を後世に正しく伝えようとするならば、日本国においての戦争の碑は、一九三一年九月の満州事変に遡らなければいけないのではなからう